

◇第7回労働講座（関西）が実施されました

新たなる挑戦・連合大阪結成を語る



労使研第7回労働講座を、10月8日（火）午後2時よりJAM西日本会館6階の講堂で開催いたしました。

今回の労働講座は関西支局初の労働講座で、元ゼンキン連合（現JAMの前進）大阪の執行委員長、大阪同盟の会長も務めら

れ、連合大阪の結成に多大の尽力をされた、初代会長の石原利昭氏迎えての開催となりました。

当日は、石原さんの講演会と云うことで、56名もの参加があり、ゼンキン連合で同時に活躍されていた、小出労使研会長も参加され、冒頭労使研を代表して、関西でも労働運動に貢献された、先輩の活動記録を是非残していきたいと挨拶されました。

講演では、労働団体にとって悲願であった全的統一が、1980年代後半になぜ成し遂げられたのか、その当時の社会、経済、政治情勢等の背景について詳しく述べられました。当時、ニクソンショック、オイルショック、プラザ合意等、相次ぐ外圧による、経済的、社会的な激震が、我が国を揺さぶり、労働者、労働組合にとって社会の仕組みを変えないと、労働者の生活を守れないとの認識の一致が、統一の大きな原動力となり、連合大阪の結成に結びついた、と。

このオイルショック等、当時を経験した参加者は、トイレットペーパー騒動を懐かしく思い出し、若い組合員は、そのような時代背景のもと、統一が進められ、今日に至っているのだと理解を深めました。

また、この統一された連合大阪が、知事選挙等で中心的な役割を果たしたこと、社会の改革には労働者、労働組合の結集が大きな力を発揮すること、今日の政治情勢に対しても、政権奪回には、労働組合が中心となるぐらいの気持ちが必要であると叱咤激励され、講演会は成果をあげて終了しました。



（詳しい内容については録画しています。労使研までお申し込みください。）